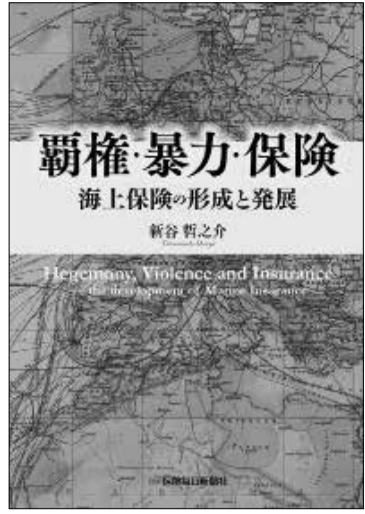


書 評

『覇権・暴力・保険——海上保険の形成と発展』

新谷 哲之介 著



タシエキサイテイニングなノンフィクションであり、海上保険の源流は戦争と略奪であったということであらためて思い知らされた。

海上保険が戦争免責とならない理由を追求

海上保険について歴史的観点から触れているこれまでの著作は、学界関係者による学術専門性の高い著作が主流であったが、本書は保険実務家の視点から、海上保険の形成過程において重要と思われる歴史的事象に焦点を当てており、取り上げている数々の事象はどれも史訓に富んだ興味深いものばかりである。保険業界関係者のみならず、貿易、経済、歴史などの

氏が執筆した『外航貨物海上保険約款詳説』（東京海上日動編、有斐閣、2021）において2022年度日本保険学会賞を受賞している。本書は序章に始まり、第1章から11章までの合計12の章で構成されている。全編に通じるテーマは、「保険の源流である海上保険は、法定保険者シニアエキスパートで、現役の実務家でありながら

一般書としても一読の価値がある。著者の新谷哲之介氏は東京海上日動海上業務部シニアエキスパートで、現役の実務家でありながら

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

骨格の多くを作り上げてきたのは戦争危険であり、海上保険には略奪や戦乱によって形成された側面があるとし、その当時の貿易実態を概観のうえ（第1章 15、18世紀頃のヨーロッパ諸国の貿易の概観）、イギリスにおける海上保険証券本文に列挙された担保危険のほとんどが、戦争・暴力・政治などのリスク

おける海上保険の発達。当時の貿易とは平和的取引ばかりではなく、捕獲免許状による他国の貨物や船の捕獲認可制度などの暴力的な面があったことを詳しく解説（第10章 因果関係）し（第3章 捕獲免許状および報復捕獲免許状）、私有財産の没収を可能とする武力紛争法上の強制措置である「捕獲」は、その歴史や判例を踏まえ、現代においても発生し得ると指摘している（第8章 捕獲）。加えて、国際的に取引される貨物も、人間である奴隷（第4章 奴隷貿易）やアヘン（第9章 アヘン貿易）などを対象とした暴力的な側面があるなど、海上保険の背景である貿易実態についても生々しく説明している。また、イギリスの保険法における重要な法律原則である最大善意（第5章 最大善意）、ワランティ（第6章 ワランティ）、そして、損害てん補の可否を決定する重要な要素となる因果関係（第10章 因果関係）についても、代表的な判例を用いて大変分かりやすく解説している。第7章（アメリカ合衆国創建後の海上保険）においては、アメリカ力における海上保険業の発祥は独立戦争を契機としており、内戦であるものの、戦時国際法が適用された南北戦争を海上保険の観点で詳細に説明している。特に、厳しい戦時経済運営の中で、貿易を途絶させることを何としてでも避けたかったリンカーン大統領が、海上保険引受継続に向けて、当時の保険業界トップと直接会談により協議したというエピソードは大変興味深い。

「保険業界から異なる業界へ転職をしていく人たちは、保険制度そのものにも専門性を追求すべき奥深さがあったことを実感したのだろうか、保険が根源的に持っている多方面にわたる奥深い世界や職業的醍醐味に触れることなく異なる業界に行ってしまうのではないだろうか」

「一気に読み終えた感想を一言で述べると、生

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

「でも、国際海上保険連合（IUMI）理事、法制審議会商法部会幹事のほか国内外の業界役員を兼務し、さらには日本保険学会や損保総研にも論文を多く寄稿しており、同

（A5判）2700円、価格2970円（税込）

[評者]

後藤 浩之（公益財団法人損害保険事業総合研究所理事長）